

各地方開発促進計画の概要

		東北	北陸	中国	四国	九州
計画名		東北開発促進計画	北陸地方開発促進計画	中国地方開発促進計画	四国地方開発促進計画	九州地方開発促進計画
根拠法		東北開発促進法 (昭和32年制定)	北陸地方開発促進法 (昭和35年制定)	中国地方開発促進法 (昭和35年制定)	四国地方開発促進法 (昭和35年制定)	九州地方開発促進法 (昭和34年制定)
対象地域		青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県	富山県、石川県、福井県	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
過去の策定状況		第1次 S33.8 第2次 S39.2 第3次 S54.3 第4次 H1.3 第5次 H11.3	第1次 S39.2 第2次 S54.3 第3次 H2.5 第4次 H11.3	第1次 S39.2 第2次 S54.3 第3次 H2.5 第4次 H11.3	第1次 S35.10 第2次 S40.2 第3次 S54.3 第4次 H2.5 第5次 H11.3	第1次 S34.11 第2次 S39.2 第3次 S54.3 第4次 H2.5 第5次 H11.3
現行計画	副題	21世紀を先導する自然共存型社会をめざして	日本海国土軸の形成を先導する北陸	多軸・分散型発展を先導する中国	本四3架橋時代の新四国創造	アジアと一体化して発展する個性ある九州
	目標年	概ね平成22～27(2010～2015)年	概ね平成22～27(2010～2015)年	概ね平成22～27(2010～2015)年	概ね平成22～27(2010～2015)年	概ね平成22～27(2010～2015)年
	基本目標	21世紀の日本の多軸型国土構造形成を先導する自然共存型社会のフロンティアとして東北を整備し、都市機能や産業の集積、南北及び東西方向に展開する高速交通体系等から構成されるラダー型(梯子)型地域構造を形成する。	①コンパクトな地域の中に変化に富んだ豊かな自然と魅力ある都市が重層的に共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な北陸 ②しかも活力があり、また環日本海交流を先導する世界に開かれた北陸を目指す。	①変化に富んだ豊かな自然と魅力ある大小様々な都市が重層的に共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な中国 ②しかも活力があり、また世界に開かれ、貢献・交流を目指す。	①変化に富んだ豊かな自然と魅力ある都市が重層的に共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な四国 ②しかも活力があり、またアジア・太平洋地域を始め世界に開かれた四国を目指す。	①変化に富んだ美しい自然と魅力ある相当規模の都市が共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な九州 ②しかも活力があり、また世界に開かれ、アジアと一体化して発展する九州を目指す。
基本方針		①ゆとりある暮らしの中で、自然の恵み、都市的サービスを享受できる東北の形成 ②世界と人々やもの、情報、文化が交流する開かれた東北の形成 ③魅力ある職場が存在し、産業に活力する東北の形成	①都市の連なりと三大都市圏への近接性を生かし、連携・交流する北陸を創造 ②優れた住環境の下で、自然に恵まれ文化の香り高い生活圏を創造 ③小さな世界企業等個性的な北陸産業の形成を促進 ④環日本海交流を先導し、新たな国際交流を展開する北陸を実現	①都市の分散型分布を生かし、域外にも開かれ、連携・交流する中国を創造 ②多様な主体の参加と連携により、多自然居住地域の創造を先導 ③産業技術集積を生かし、創造的な産業社会への転換を促進 ④世界に貢献し、交流する中国を実現	①本四3架橋時代の到来を生かし、域内外にわたって広域的に連携・交流する四国を創造 ②自然、歴史・文化と共に、高齢者も安心して暮らしが味わえる生活圏を創造 ③特色ある創造的な企業群の形成による産業構造の高度化を促進 ④アジア・太平洋地域と交流する四国を実現	①相当規模の都市と豊かな自然が織りなす多様な地域が連携・交流する九州を創造 ②自然と共に安全で安心して暮らせ、誇りが持てる生活圏を創造 ③知識集約化に向けて産業の高度化を促進 ④歴史的・文化的繋がりが生かし、アジアとの一体的発展に向けた国際交流を先導する九州を実現